

# 令和7年度 各会議の報告

- 1.文京区地域移行支援検討会議
- 2.文京区精神障害者支援機関実務者連絡会
- 3.文京区地域生活安定化会議

# 1.文京区地域移行支援検討会議

## 【目的】

- 精神障害者及び知的障害者の地域移行を促進するため、行政・福祉・医療の連携を図り、文京区の基盤整備の取り組みを強化する。
- 「にも包括」の構築にあたっては、**地域基盤の整備の軸**に沿って検討

## 【実績】

令和7年度：年4回実施

# 1.文京区地域移行支援検討会議

## 【主な議題】

- 第1回：講演「医療機関からみた地域移行」  
講師：コレット 美喜氏（東京武蔵野病院 看護部長）
- 第2回：地域移行支援事業についての説明（区事業・都事業等）
- 第3回：入院者訪問支援事業の説明（東京都福祉局）  
長期入院後退院者事例報告（4事例）
- 第4回：長期入院後退院者事例報告（1事例）  
長期入院医療機関調査結果報告

# 1.文京区地域移行支援検討会議

## 長期入院後退院事例から考える：地域移行の促進要因と阻害要因

### 【促進要因】

- ・ 本人の強い退院意欲
- ・ 本人のキャラクター（持ち味）
- ・ 支援者等の退院支援に対する熱意
- ・ 「条件が整えば、地域に戻る力がある」という主治医の見立て
- ・ 医療機関のバックアップ体制（入院の受け入れ保障）
- ・ 小さな迷惑行為はあるが、大きな迷惑行為はない
- ・ 近隣住民の柔軟な対応（地域側の受け入れ）
- ・ 支援者との関係性  
(病状だけでなく特性を理解して本人の信頼を獲得)

### 【阻害要因】

- ・ 地域移行支援を担う事業所がない
- ・ 退院先が見つからない
- ・ 支援者間での支援方針が異なる
- ・ 入院医療機関が遠方
- ・ 本人からの度重なる迷惑行為による家族の疲弊

### < 阻害要因に対する対策案 >

- ・ 連携強化の補助を利用
- ・ 家族に対して現時点の病状を伝える仕組みづくり
- ・ 長期入院者調査結果を基に、個別に対応方法を検討

## 2.文京区精神障害者支援機関実務者連絡会

### 【目的】

- 区内在住の精神障害者が地域に定着して自立した生活を送ることを目指し、区内関係機関の連携及び職務遂行能力の向上を図る。
- 「にも包括」の構築にあたっては、**支援体制の整備の軸**に沿って検討

### 【実績】

令和7年度：全3回実施

# 2.文京区精神障害者支援機関実務者連絡会 第1回

令和7年度 第1回精神障害者支援機関実務者連絡会

＼ここがスゴイ！ピアサポート／

## 再発見！ 地域を支えるピアの力

実際にピアサポートワーカーとして活躍されている方がお話しします  
当事者視点を知って、対人援助のヒントを見つけませんか

- ピアサポート  
ってなんだろ？
- ピアサポート  
ワーカーの  
活動紹介
- 参加者交流  
グループワーク

2025  
日時 **10/3 金**  
18:00~20:00

対象  
・区内精神障害者支援機関  
・医療関係者  
・その他支援職

会場  
文京区民センター  
2-A会議室

お申し込みは  
フォームから  
9/26 (金)  
締切



講師 **石田 貴紀 氏**

東京大学大学院医学系研究科  
医学のダイバーシティ教育研究センター  
東京大学医学部附属病院 精神神経科  
ピアサポートワーカー

精神保健福祉士・介護福祉士資格保有。  
院内で仲間たち(患者さんたち)と日々小さな  
ピアサポートを営んでいる。  
「医療サービスの最適のデザイン者は患者・障害者  
であり、障害のある人がその体験を生かして医療の  
担い手となることは、患者中心の医療の推進にとっ  
て不可欠である。」理念のもと、学生や教員・多職  
種のメンバーで、対話と実践を積み重ねている。  
就労継続支援B型事業所、ハウジングファースト  
東京プロジェクトにも参加し、路上生活など  
生活に困窮されている方の相談支援を行っている。

＼お問い合わせ／

文京区予防対策課精神保健担当 TEL: 03-5803-1847  
文京区障害者基幹相談支援センター TEL: 03-5940-2903

## 【テーマ】

＼ここがスゴイ！ピアサポート／ 再発見！地域を支えるピアの力

## 【目的】

ピープルファーストの理念やピア活動の実際を学び、支援者主体ではなく「当事者主体」の支援をしていくための工夫を学ぶ。支援の行き詰まりや疲弊を感じている支援者が、当事者の持つ力（ピアの力）を知ることで、関わり方のヒントと新たな支援のあり方を見出すことを目的とする。

## 【講師】

石田貴紀氏

東京大学大学院医学系研究科医学のダイバーシティ教育研究センター  
東京大学医学部附属病院 精神神経科  
ピアサポートワーカー

## 【参加者】

23名


# 2.文京区精神障害者支援機関実務者連絡会 第2回

令和7年度第2回  
精神障害者支援機関実務者連絡会

## 「私らしい選択」を支える

～精神障害がある方の意思決定支援のいろは～

病気や環境によって、思うように自分の意思を伝えられない精神障害がある方々。日々、迷いや葛藤を抱えながら支援してもらっているか。  
ご本人に寄り添い、「こうしたい!」を支えるためのヒントを一緒に学びましょう!




**講師** フォルテ司法書士事務所  
吉弘 裕輔 氏 (司法書士・精神保健福祉士)

**日時** 令和7年11月28日(金) 18時～20時

**場所** 文京区民センター 2-A会議室

**対象** 文京区内の精神障害者・高齢者支援機関  
・医療関係者・その他支援職の方

お問い合わせ・詳細・申込はこちら



左記QRコードからお申込みください。

予防対策課精神保健担当  
川口・田中・堀内  
☎ 03-5803-1847

文京区障害者基幹相談支援センター  
荒木田・河井・谷本・池田・枝松  
☎ 03-5940-2903

締切：令和7年11/17(月)

### 【テーマ】

「私らしい選択」を支える  
～精神障害がある方の意思決定支援のいろは～

### 【目的】

精神障害がある方の「意思伝達の難しさ」や「本音と体裁の乖離」を理解し、支援者が抱く迷いや葛藤を解消するための視点を養う。日々の関わりの中で本人の「こうしたい!」という意向を汲み取り、「私らしい選択」を支える実践的なスキル習得を目的とする。

### 【講師】

吉弘 裕輔氏 司法書士/精神保健福祉士

### 【参加者】

24名

# 2.文京区精神障害者支援機関実務者連絡会 第3回

支援現場のための  
令和7年度 第3回精神障害者支援機関実務者連絡会

## ダイアログワークショップ

支援の基になる「対話」について、体験を通して改めて学ぶ

普段から相手の話を「聴く」支援者だからこそ、  
聴いてもらう体験を通じて、対話の力を再認識しませんか。  
対話にはセルフケアや風通しの良い職場づくりにもつながるヒントがあります。  
対話を通じて、自分の感じ方や考え方の傾向を意識し、  
日々の実践より良い連携に生かす機会としてご活用ください。

**会場**  
文京区民センター  
会議室3-A

**日時**  
2026  
2/19(木)  
18:00~20:00

**対象**  
・区内精神障害者  
支援機関従事者  
・医療関係者  
・その他支援者

**内容**  
フィンランド生まれの対話実践  
”オープンダイアログ”  
ワークショップの進め方  
導入：オープンダイアログの  
基本的な考え方を紹介  
実践：「聴く」と「話す」を分ける対話を  
グループワークでじっくり体験

**講師**  
徳村 牧氏  
元家庭裁判所調査官  
社会福祉士  
精神保健福祉士

申し込み  
フォーム  
締め切り 2/13 (金)



### 【テーマ】

支援現場のためのダイアログワークショップ  
支援の基になる「対話」について、体験を通して改めて学ぶ

### 【目的】

オープンダイアログの講義とワークショップを通じ、「聞く・  
聞いてもらう」対話の力を再認識する。  
自己覚知を深めることで支援技術の向上を図るとともに、心理的  
安全性の高い職場環境づくりと支援者自身のケア（支援者支援）  
を目指すため。

### 【講師】

徳村 牧氏  
元家庭裁判所調査員/社会福祉士/精神保健福祉士

### 【参加者】

20名



お問い合わせ

文京区予防対策課精神保健担当 03-5803-1847  
文京区障害者基幹相談センター 03-5940-2903

# 3.文京区地域生活安定化会議

## 【目的】

- 精神科未治療者や治療中断の可能性が高い者、通常の障害福祉サービスの利用ができない者等を対象とし、自宅への訪問や受診同行を行うことを通して、地域での安定した生活を支える
- 「にも包括」の構築にあたっては、**個別支援の検討の軸**に沿って検討

## 【実績】

令和7年度：年4回実施（5月、8月、12月、2月）

# 3.文京区地域生活安定化会議

# 実績・状況

## 【R7年度 実績】

- R7年度実働ケース：16件
- 終了ケース：5件 ※詳細は次のシートで報告
- 平均継続年数：7.7年（最長14年/最短1年）
- 平均年齢：55.8歳（最高齢：81歳/最若齢：30歳）
- 疾患別（複数該当あり）：  
統合失調症15件/広汎性発達障害2件/双極性障害1件/器質性妄想性障害1件

## 【状況】

- R7年9月末をもってエナジーハウスの安定化支援対応が休止。

# 3.文京区地域生活安定化会議 終了ケースの共有

R7年終了ケース：5件

## 【詳細】

### ・ 支援体制調整による終了

訪問看護や居宅介護・通所先・ショートステイ・金銭管理支援で保佐人による支援も開始され、地域生活を継続するための様々な支援が稼働。本人の了解を得た上で安定化終了。

### ・ 本人死亡による終了

体調の波はありながらも支援者の連携と休息入院を挟みながら 地域生活を継続。在宅生活中に逝去。安定化と介護保険の併用で最後まで地域生活を継続できたケース。

# 3.文京区地域生活安定化会議 意見交換 課題

## 【支援の長期化】

- ・対象者には受診や服薬だけでは解決しない困難性がある。
- ・生活支援が必要なケースも多く、支援が長期化しやすい傾向がある。
- ・支援の長期化により加齢による課題を孕み、高齢・介護分野との連携が求められる。

## 【安定化の役割】

- ・病識がない方は既存のサービスに繋がりにくい。病識がない人ほど、支援者との関係づくり段階から安定化での関わりが有効。
- ・サービスのつなぎとして安定化が横断的な機能を担う。